(ｱ) 言語文化に対する関心や理解を深め，国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
(ｲ) 日常の言葉遣いなど言語生活に関心をもち，伝え合う力を高めるのに役立つこと。
(ｳ) 思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨くのに役立つこと。
(ｴ) 情報を活用して，公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。
(ｵ) 生活や人生について考えを深め，人間性を豊かにし，たくましく生きる意志を培うのに役立つこと。
(ｶ) 人間，社会，自然などに広く目を向け，考えを深めるのに役立つこと。
(ｷ) 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め，それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
(ｸ) 広い視野から国際理解を深め，日本人としての自覚をもち，国際協調の精神を高めるのに役立つこと。

オ　古典の教材は，次のような観点に配慮して取り上げること。
(ｱ) 伝統的な言語文化への理解を深め，古典を進んで学習する意欲や態度を養うのに役立つこと。
(ｲ) 人間，社会，自然などに対する様々な時代の人々のものの見方，感じ方，考え方について理解を深めるのに役立つこと。
(ｳ) 様々な時代の人々の生き方や自分の生き方について考えたり，我が国の伝統と文化について理解を深めたりするのに役立つこと。
(ｴ) 古典を読むのに必要な知識を身に付けるのに役立つこと。
(ｵ) 現代の国語について考えたり，言語感覚を豊かにしたりするのに役立つこと。
(ｶ) 中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと。

第３　論理国語

１　目　標

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的，批判的に考える力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，



他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

２　内　容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　言葉には，言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。

イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し，文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。

ウ　文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。

エ　文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など，文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。

(2) 文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。

イ　情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。

ウ　推論の仕方について理解を深め使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。

〔思考力，判断力，表現力等〕

A　書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について，書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集，整理して，目的や意図に応じた適切な題材を決めること。